２０１３年（平成２５年）１月２４日　木曜日　　第４６号

# いさわだむ にゅーす

国土交通省　東北地方整備局　胆沢ダム工事事務所


石淵ダム（ゲート撤去後）

## 謹賀新年


胆沢ダム工事事務所長
松井 幸一

### 胆沢ダム工事事務所長　新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災発生から１年と９ヶ月あまりが経過し、昨年の１１月２５日には復興道路・復興支援道路として初の東北横断自動車道釜石秋田線（宮森ＩＣ～東和ＩＣ）が開通するなど徐々に復興に向けた取り組みが実りつつある状況にありますが、未だ被災された方の日々のご苦労は耐えないことと存じます。引き続き、愛するふるさと東北・岩手の力強い復興へ向けて、微力ながら努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

さて胆沢ダムは、岩手県奥州市胆沢区において建設している、高さ１３２ｍ、堤頂長７２３ｍ、堤体積約１，３５０万㎥、総貯水量１億４，３００万㎥のわが国最大級の中央コア型ロックフィルダムです。

昨年１２月３日に待望の「湛水式」を執り行い、無事「試験湛水※」を開始することが出来ました。

事業着手から２９年目で試験湛水を開始するに至ったわけですが、試験湛水はこれまで行ってきた調査やそれに基づく設計・施工が適切だったのかを確認する、いわばダム建設にとっての「集大成」といえる作業です。

わが国初のロックフィルダムとして５９年もの間地域に愛され、永く親しまれてきた石淵ダムからその役割を引き継いだ胆沢ダムですが、事業効果を最大限発揮できるよう職員一丸となり、緊張感を持って試験湛水に取り組み、平成２５年度内のダム竣工を目指す所存ですので、引き続き胆沢ダム建設事業へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が皆さまにおかれまして最良の年でありますことをご祈念申し上げますとともに、一日も早い力強い岩手の復興を切に望み、新年のあいさつといたします。

※「試験湛水（しけんたんすい）」とは、ダム堤体完成後に実際に水を貯めて、ダム本体や放流設備、貯水池周辺等の安全性を検証する試験です。


湛水の状況（H25.1.7　胆沢ダム天端から上流方向を撮影）

# 待望の試験湛水スタート

## 平成２５年度内のダム完成に向けて

去る平成２４年１２月３日（月）、胆沢ダム管理庁舎において、湛水式が執り行われました。

式典に先立ち、地元奥州市胆沢区市野々地区の皆様による郷土芸能「念仏剣舞」が披露されました。鬼の面を被った舞手が大地を踏みしめる勇壮な舞は、これからの試験湛水が穏やかにつつがなく運ぶように、大地に気をこめた力強いものでした。

奥州市長の挨拶に続き、胆沢ダム工事事務所長による工事経過報告の後、「ゲート閉塞開始！」の号令とともに一斉に閉塞ゲート降下ボタンを押し、ついに閉塞ゲートが降ろされました。

一同が見守るなか、下段仮排水トンネルの閉塞ゲートがゆっくりと降ろされ、無事に胆沢川の流れをせき止めたことを確認すると、会場は、喜びの拍手に包まれました。最後に金ケ崎町長のご発声による、万歳三唱で式典は締めくくられました。

試験湛水は、平成２５年５月頃に洪水時最高水位（洪水時に一時的にダムに貯留することができる最高の水位）まで水位を上昇させ、その後、最低水位（ダム運用上最低限必要な水位）まで段階的に低下させて、順調に行くと、平成２５年１０月頃に試験湛水は終了する予定です。

試験湛水の最新状況は、胆沢ダム工事事務所ホームページ（http://www.thr.mlit.go.jp/isawa/）で公開しておりますので、興味のある方はご覧下さい。


念仏剣舞



ゲート降下ボタン押下



閉塞ゲート無事降下

# 労災ゼロを誓い

## 胆沢ダム最後の合同安全大会を開催しました



松井所長あいさつ

平成２５年１月９日（水）、胆沢ダム学習館において、合同安全大会が開かれました。

大会は、胆沢ダム建設工事事故防止対策協議会が事故防止の一環として、現場従事者の安全意識を一層高めるため、毎年初めに開催しているものです。

この日は現場代理人や関係会社など約１５０名が参加、各代表が安全宣誓を行い、ダム完成まで残りわずかとなりましたが、最後まで無事故で乗り切るよう、労災ゼロを誓い合いました。

《編集・発行》
国土交通省　東北地方整備局　胆沢ダム工事事務所
〒023-0403　岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77　TEL：0197-46-4711　FAX：0197-46-4361
ホームページ：http://www.thr.mlit.go.jp/isawa/　　メール：isawa@thr.mlit.go.jp